

人間社会と経済活動の 持続可能性は地球環境に

支えられている

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



10 人や国の不平等
をなくそう



12 つくる責任
つかう責任



1 貧困を
なくそう



2 飢餓を
ゼロに



3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



16 平和と公正を
すべての人に



6 安全な水とトイレ
を世界中に



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさ
も守ろう



「地域の宝、里山をこども達へ」の里山保全活動をNPO法人里山会公文名ファイブは継続します。



「ウェディングケーキ」と呼ばれるSDGsの関係図。土台となる生物圏の課題の上に、社会課題や経済課題が載っている



SDGsとESGの違い

投資分野では、ESG（環境・社会・企業統治）という言葉もよく用いられます。SDGsは、企業が事業を通じてESGに取り組む際の指針ですので、ESGとSDGsは深く関係し合っているとと言えます。

SDGsの17のゴールとは？

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた課題は17。ここには「地球上の誰一人として取り残さない」と記されていて、先進国か新興国かという垣根はありません。地球全体として、私たちが快適に生活を続けられるために皆が何をすべきか、という指針なのです。

SDGsのウエディングケーキモデルとは

最下層部は「自然資本」であり、農業、温暖化、漁業などと紐づいています。そのベースがあって、2階層目には「社会関係資本」があり、自然資本をベースにした各分野の課題が積みまれています。3階層目には経済や生産性を積み上げた「財務資本、知的資本、人的資本、製造資本」があり、企業は3階層目の生産性を上げるために、1階層目・2階層目のベースが必要で、ここでの問題を放置できないというのです。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. 全ての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. 作る責任 使う責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正を全ての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

環境問題から人権や貧困問題までを網羅したこの指針は、一見バラバラに見えますが、実はそれらは深く関係しています。

例えば、1の貧困をなくすことと6の安全な水や10の不平等をなくすことは密接に絡み合っています。

ウエディングケーキモデルと呼ばれるこの構造は、環境問題や人権問題が最終的には企業の生産性にも影響を与えるということを示しています。

